

2020年 6月
第10回留学報告書
久門 智祐

2015年の夏より、University of PennsylvaniaのPhD課程(生物学)に在籍する久門智祐です。5年目冬から、6年目夏の現在に至るまでの経過を報告します。

さて、前回の報告書で、

いまのところ報告書で宣言しておく与实际そのようになっているので、ゲンを担いで次の報告書までには論文と総説と次のポストに目処が付いているようになっていけばいいなと考えています。

など書いています。非常に見事な前フリです。卒業後は芸人を目指してもいいかもしれません。この数ヶ月後、まさかコロナの影響で大学閉鎖になるとは考えてもいなかったようです。

ちょうど大学が閉鎖になる時期に、準備に1年近くかかる実験の真っ最中でした。ここで実験を止めてしまうと非常にまずいことになるので、大急ぎで実験をして、研究停止期限をギリギリ駆け込みセーフ（アメリカ基準）で迎え、なんとか必要な実験を終わらせることができました。その後は在宅でデータ解析をして、論文執筆を始めました。データさえ揃えば執筆作業なんて一瞬だろうと舐めていたのですが、全然そんなことはありませんでした。7月中には投稿できるよう目下執筆中です。ポスドク探しや総説の執筆は論文投稿の後を予定しています。

先日から大学再開のフェーズ1が始まり、人数制限付きで研究室へ行くことが許可されました。研究室のある建物内で人との接触を減らすために、すべての通路で一方通行となるなど、非常に細かなルールもあります。ただしその一方通行の指示通り建物を動こうとすると、一度建物に入ってしまうと二度と外に出ることができないなど、ツッコミどころが満載のルールですが、各自知恵を絞って建物から出ているようです。

もともとフィラデルフィアは治安の良い街ではなかったのですが、コロナによる外出禁止令と、警察へのデモ・暴動の影響が重なり、暴走車が突っ込んできたり、強盗は日常茶飯事、家の隣の店が襲撃されたり、車やATMが爆発したり、治安が非常に悪化しました。やはりコロナよりも蚊よりも、一番怖いのは人間だなと思いました。さすがに夜な夜な爆発音が聞こえた時期は気が滅入りましたが、最近は落ち着いてきました。この治安なので基本的には家で籠城していたのですが、オフィスやラボ、そして近所のカフェのありがたみを実感しました。やはり人の目があつた方が集中しやすいのと、一区切りついたら場所を移すなどのメリハリをつけられないうえ、在宅では気分転換が難しいなと感じました。あつまれどうぶつ森を買ったことは黙っていようと思っていましたが、馬淵くんの報告書で暴露されてしまいました。ほどほどに気分転換しつつスケジュール通り卒業できるよう頑張ります。



閉鎖直前の肥えたりス



ヒトが消えてエサも無くなり呆然



ずいぶん痩せました